



1月26日 市民の皆さんからお預かりした支援物資を輪島市へ配送する佐川急便の皆さん

ごあいさつ

令和6年2月6日

1月16日、発災直後から道路の寸断により、一時孤立状態にあった輪島市鶴巣（このす）地区から112名の避難者の方々を受け入れるため、老人福祉センター椿荘と、市役所ホール椿を2次避難所として開設いたしました。できる限り安心した生活を送っていただけるよう、職員一丸となって受け入れ準備を進め、環境を整えてきました。

受け入れから半月が経過し、避難されている皆さんも少しずつ落ち着きを取り戻されている感じが感じられます。食事の準備を手伝ってくださる防災士の皆さんをはじめ、さまざまな団体の皆さんからの炊き出しや、市民の皆さんからの支援物資の提供など、たいへんありがたいお申し出をいただいております。折に触れて温かい思いやりの気持ちを感じています。

避難されている皆さんは、これからの生活にまだまだ不安を抱えられていることと思います。大きな被害を免れた野々市だからこそできる支援を考え、被災された皆さんに寄り添ってまいりたいと思っております。

今回の地震により、文化会館フォルテ大ホールの天井が損傷のため、大ホールは当面閉鎖させていただくことになりました。大ホールを除く施設につきましては、2月1日から使用を再開しておりますが、ご迷惑をおかけしますこととお詫び申し上げます。

1月7日の成人式も、急遽、会場を文化会館から野々市小学校の体育館へと移し、開催させていただきました。そのような中でも、旧友との再会に例年どおり和やかな雰囲気で行うことができました。

新成人の皆さんには、今回の震災をとおして、あらためて感じた人と人との繋がり的重要性を忘れずに、自分の夢に向かって歩んでいただきたいと思っております。

本市では、これまでも地震発生を想定した防災訓練を行い、職員の参集や避難所の開設といった手順の確認を行ってまいりましたが、今回の地震を受けて、これまでの訓練の検証に加え、災害発生時における判断力や柔軟な対応力がいかに重要であるかということを感じました。

さまざまな計画やマニュアルを改めて整えながら、その瞬間の最善の行動をいかに早く判断し、実行していくのか。これから、市民の皆さんとともに、その力を養っていきたいと思っております。